



尼崎市立小園中学校 第1学年

社会科通信

なんでやねん

発行責任者 倉橋 忠



No. 1

社会科で何を学ぶんやろか？

最初の授業 「天ぷらそばは、日本の食べ物か？

それとも外国の食べ物か？」で学んでほしかったこと

小学校の社会科でも、「あゆみ」の評価項目に、社会事象に関する「意欲・関心・態度」、「社会的思考・判断」、「資料活用技能」、「知識・理解」の4項目がありました。

それらの4つの評価項目は、中学校の社会科の授業でも同じです。けれども、それらの項目が、どんな内容をもっているのかを知っている人は、ほとんどいないでしょう。そこで、社会科通信「なんでやねん」を使って、これから、少しずつ項目の内容を説明していきます(授業のポイントも教えていきますけどね)。

さて、評価項目は、その教科の学習目標にしていることが、身についているかどうかを試すためのものです(小学校では、これを「めあて」と言っていました)。授業のポイントは、4つの視点(角度と言ってもいいかな?)から考えることができます。

別の言い方をすれば、評価項目を知ることが、その授業の重要ポイントを知ることになります。それが評価項目の役割です(これを観点別評価と言っています)。先生(倉橋)は、さらに、これらの観点別評価項目を、各授業時間ごとに、『だれもが、ここまではできてほしい』目標(めあて)を考えて授業をします。その目標を到達目標と言います。

さて、今回は、最初の授業の「天ぷらそばは、日本の食べ物か？ それとも外国の食べ物か？」で、上の4つの評価項目を説明してみましょう。



この授業を受ける前に、君たちは日本の国の今の生活について考えたことがあったでしょうか？ ふだんは、ほとんどの食品が外国から輸入されていることなどは考えずに、『すき、きれい』とか、『おいしい、まずい』でしか食べ物をみていなかったのではないのでしょうか。けれども、この授業を受けた後では、どうなったのでしょうか。たぶん、『この食べ物は、どこの国から来ているんやろか？』などと、考えるようになった人がいるでしょう。もし、そうだとしたらその人は、社会事象に関する「意欲・関心・態度」が芽生え始めたことになります。この生まれたばかりの「興味」が、発展して、専門的な領域を自分で進んで調べるようになれば、「意欲・関心・態度」は、

ほんもの

本物だと思います。

ところで、どの学級(3組～6組)でも、授業の始めの答えは「天ぷらそばは、日本の食べ物」だと答えた人が、圧倒的に多かったのが事実です。そして、

各国の食用農産物の自給率(1988年)(%)						
	日 本	アメリカ合衆国	イギリス	旧西ドイツ	フランス	イタリア
穀物	30	109	105	106	222	80
穀物	67	182	97	113	241	79
の						
うちわけ	15	186	99	116	249	74
粗粒穀物	2	95	117	99	203	81
いも類・でんぷん	93	97	90	99	104	86
豆類	8	123	106	27	136	57
野菜類	91	97	88	40	86	122
果実類	63	82	11	41	63	112
肉類	70	97	81	89	101	73
卵類	98	102	97	71	96	95
牛乳・乳製品	78	100	92	112	116	68

財団法人 矢野恒太郎記念会編『94/95日本国勢図会』国勢社 1994. 6 p. 183

「天ぷらそば」の材料の自給率を調べた後では、どの学級でも「外国の食べ物」と考えるようになった人が圧倒的に多くなりました。このように「調べた結果」が、「自分の考えた結果(結論)」に大きな影響を与えていることを、君たちは1時間目と2時間目の授業の間に体験的に知ったわけです。



「調べた結果」が「結論を変える」というこの事実は、非常に重要な意味をもっています。君たちの「考えて出した結論」は、あくまでも、考えるために使った情報(知識)に制限されているということです。勉強したり、調べたり、すればするほど考えるための情報(知識)は、増えていきます。そのために、勉強することが新たな疑問を生み出すようになります。そして、正確で公正な判断をするためには、できるだけ多くの客観的な情報(知識)を収集する(集める)ことが重要だということになります。社会科の学習の大きな目標の「社会的思考・判断」は、このように、客観的な資料に基づいて論理的・合理的に推論をすること(筋道をたてて考えること)ができる力をつけることにあります。「結論」も大切ですが、「結論」以上に、「結論」にたどりつくまでの考え方が重要なのです。

けれども、いくら客観的な資料を収集しても、読みとる力がなければ何もなりません。そこで、資料から事実を読みとる力をつけなければなりません。これが「資料活用技能」です。今回は、貿易に関するグラフの読み取りが中心でした。

今回の課題の「答え」を考えるために、君たちは、様々な情報を知りました。考えるために必要不可欠な情報だったものが、「知識・理解」の大切な事柄(内容)ということになります。醤油、天ぷら・そばなどの原料や、和食・洋食の意味も常識として大切です。小麦や大豆などが、どこの国から輸入されているのか。そして、結論的な「知識・理解」として、食糧(食料)自給率が低い日本 = 国際関係の中でのみ生存できる日本。が登場しました。

さらに、学習後『なんで、食料を輸入せんとあかんようになったんやろ?』『いつまで輸入できるんやろ?』などの疑問が出てきていたら、君はかなり「かしこい子」だと思っていいますね。本物の「意欲・関心・態度」が育ちつつあると言えるからです。

